



学校だより

令和4年1月31日

2月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



校長 住田 昌治

「すべてつながっている」

数年前、目の奥の痛みのため、眼科にかかったのですが、巡り巡って脳神経科にかかることになりました。その脳神経科のベテラン医師がこんな話をしていました。

「医者もどんどん分業して行って専門的になった。医学が進歩していることは確かなんだけど、その反面、体のことを総合的に見て治療しなくなった。体はどこもつながっているのに、医者（病院）はあまりつながっていない。専門医に行くと痛みが出たところだけを治そうとする。患者さんも、とにかく痛みをとって欲しいと願って病院に行くよね。でも痛みが出ている所が悪いかどうかは分からないよ。原因は全然別のところにあるかもしれない。だから最終的にここに来ることになるんだよ。

それから、私は患者さんの痛みを完全にとらないようにしている。ちょっと痛みを残して、後は患者さん自身の体の力で治す。体には本来自然治癒能力があるから、その手助けをするのが私たち医師の仕事。薬で痛みを完全にとると、治ったと勘違いする人がいるけど、本当に治ったんじゃない。痛みがないと無理して益々悪化させてしまう。痛みがあると、これくらいでやめとこうと思って、程々の所で休むでしょ。レッドカードの前にイエローカードが出て気をつけるようなもの。あなたも、パソコンの画面を見ていたら、急に右目だけ砂嵐になったら嫌でしょ。そうならないために痛みがあるんだよ。そう考えると痛みも有り難いでしょう。だから、ちょっと痛みが残るように、治療したいと思うけどいい？それとも、完全に痛みをとってほしい？」

そう言われて、完全に痛みをとって欲しいとは言えませんでした。話を聞きながら、どんどん専門的になり分業化していくと、関わっている所は詳しくなるけども、全体を見たり、他のところを見たりすることをしなくなってしまうのだと考えました。つながりがなく、バラバラに見ていくと原因を間違えたり、バランスを崩してしまうことにもなりかねません。これは、病院のことだけでなく、教育や政治、経済、環境等も同じことが言えるでしょう。

痛みの話は、他力本願にならず自分の力で解決することを示唆されているようです。体の中は、見えないのだけれども、治療や薬の力を借りながらも自分の力で治そうとしているのです。全て人任せにすることなく、まずは自分のことをしっかりケアしながら、自分で考えて行動していかなければならないと感じました。

脳神経科の医師との会話を通して、「つながり」について新たな視点から考えることができました。学校の授業においても各教科等の関連を意識して、「人・もの・こと」のつながりをさらに深めていきたいと考えています。